

# 世界へ飛び立とう～in ラオス～

所 属	沖縄県うるま市立勝連小学校	実践者	又吉 健志
対 象	小学 6 年生	時間数	5時間
担当教科	小学校理科	実践教科	道徳・総合的な学習の時間・社会
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の国々に目を向け自分たちの生活を振り返る。</li> <li>・ラオスの文化・生活を理解し、自国や外国の文化を尊重する態度を育てる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<p>「世界がもし100人の村だったら」</p> <p>○世界がもし、100人の村だったら」を読みワークショップを行い体験する。(世界の色々な国の文化・言語・地域による格差・文字が読めなかったらどうなるか等)世界には自分たちと違う暮らしをしている子ども達がいることを知り、世界に目を向ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」第5版(発行:開発教育協会)</li> <li>・ラオスの写真、動画</li> <li>・ラオスの写真、動画、ワークシート</li> </ul>
	2	<p>「ラオスについて知ろう」</p> <p>○ラオスで撮った写真や動画、教師の話からラオスの人々の様子を知る。(ラオスの文化・歴史・生活等)</p> <p>フォトランゲージを通して、ラオスの人々の様子について知り、互いの価値観を尊重する。</p>	
	3	<p>「ラオスのウソ?ホント?クイズ」</p> <p>○ラオスと沖縄の相違点、共通点を○×クイズを通して知る。</p> <p>・写真やカードを使い、日本とラオスの学校や生活、食生活、文化を具体的に知る。</p>	
	4	<p>「沖縄とラオスの共通点～戦争が残した傷跡～」</p> <p>○ラオスの不発弾の現状を知ること、戦後も続く傷跡について知り、</p>	
	5	<p>平和について、今自分ができることについて考える。</p> <p>○沖縄の不発弾の現状を知り、ラオスと沖縄世界には戦争で苦しんでいる国があることを知り、平和について考える。</p>	
5	<p>○沖縄の不発弾の現状を知り、ラオスと沖縄世界には戦争で苦しんでいる国があることを知り、平和について考える。</p>		
成 果	海外に興味を持ち、自分たちの生活を見つめ、世界の国々の文化や今も戦争の被害にある国のことを知り、自分にできることを考えることができた。		
課 題	・自分たちの生活と比べると途上国がかわいそうという考えが多かった。国際理解教育を継続して行うことで環境の違う途上国でも幸せに生きているということを考えられるようにしていきたい。		
備 考			

## [授業実践の詳細]

### 1 時限目 「世界がもし100人の村だったら」

#### 1 子どもの活動の流れ

ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」

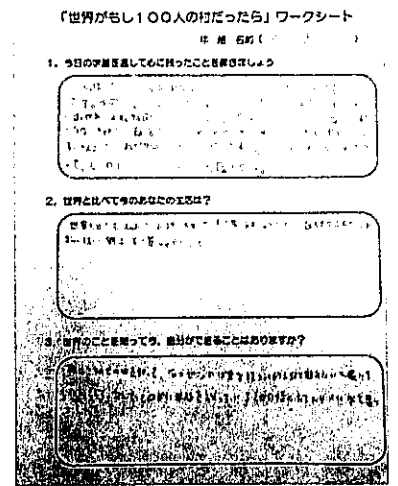
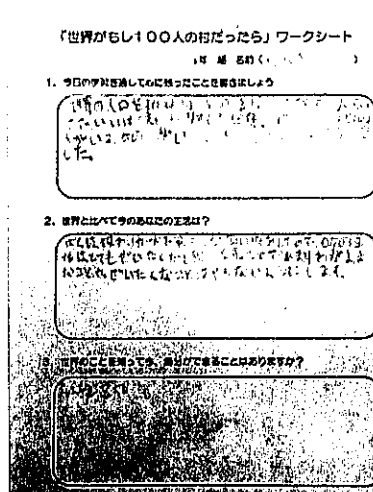
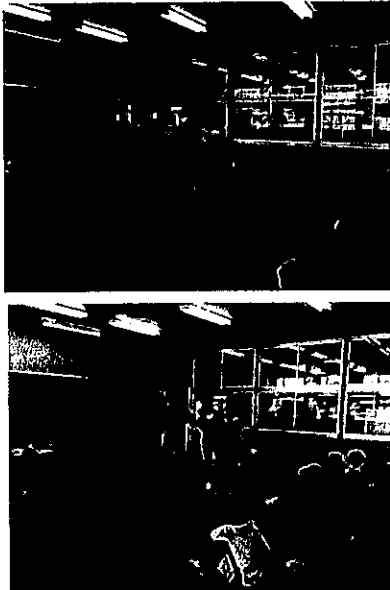
- ① 世界の人口や男女の割合などクイズを出す。
- ② 役割カードを与えて様々な言語であいさつをする。
- ③ 大陸による人口密度を体験する。
- ④ お菓子をを使って地域別による所得の差を体験する。
- ⑤ 言語が理解できないとどうなるか体験する。

#### この時限のねらい

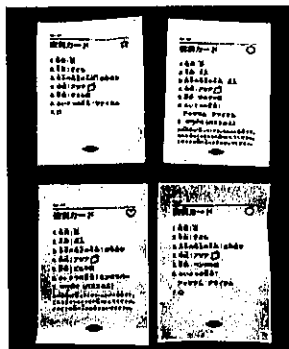
「世界がもし100人の村だったら」をワークショップで体験することによって、世界の現状を知り、自分たちの生活を考える。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇本と違う文化を知ること、自分の生活を見直すことができた。
- ◇途上国や貧しい国に比べて、いかに自分の国がどれだけ恵まれているか感じる事ができた。
- ◇世界の問題を知ることができ、国際協力の必要性について考えることができた。
- ◇自分の生活と比べてみると、当たり前のことが当たり前でないことを知った。



#### 3 使用した教材



ワークショップ版  
『世界がもし100人の村だったら』第5版

## 2-3時限目 「ラオスについて知ろう」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① ラオスの写真や動画からラオスの人々の様子を知り自分たちの生活とラオスを比べて共通点、相違点を知る。
- ② ラオスと沖縄の相違点、共通点を○×クイズを通して知る。
- ③ 写真やカードを使い、日本とラオスの学校や生活、食生活、文化を具体的に知る。
- ④ ラオスの写真や動画を通して、自分の考えや思ったことをワークシートに記入する。

この時限のねらい  
ラオスについて知ること、日本との違い、他国のことを知り、自分の生活を見直す。

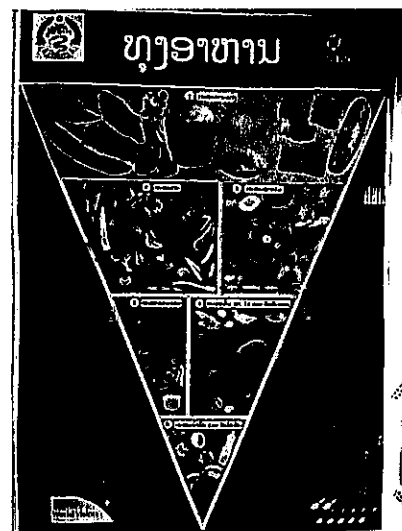
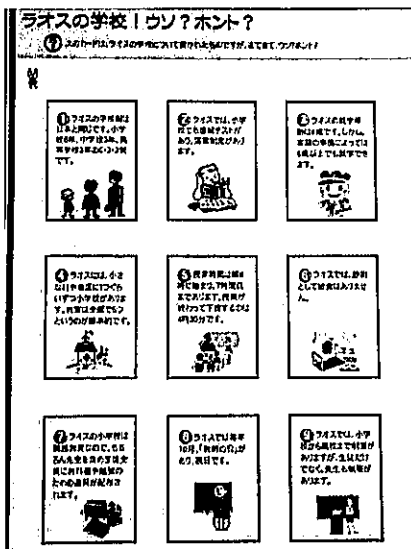
### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇日本、沖縄と違う文化「ラオス」に興味をもって活動することができた。
- ◇ウソ？ホント？クイズを通して異文化に触れ、グループの仲間と協力して活動することができた。
- ◇ラオスの子どもたちと自分たちの生活の共通点や相違点を見つけることができた。

〈児童の感想〉

- ◇学校や生活など人はみんな同じだと思っていたけど、国によって違うことを知った。
- ◇ラオスの食事で虫やネズミ、幼虫を食べているのに驚いた。日本は恵まれていると感じた。
- ◇栄養素の中に虫が入っていたのはびっくりした。

### 3 使用した教材



〈教材〉ラオスについて—愛知県国際交流協会—

〈教材2ラオスの食品分類表〉

## 4-5時限目 「今も残る戦争が残した傷跡」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 不発弾からできたスプーンや栓抜きに触れて感触を確かめ、何をもとにできたか考える。
- ② 不発弾からできたスプーンであることを知り、ラオスの不発弾の実態を写真や動画で見る。
- ③ 戦争が終わっても残る傷跡について考え、今自分に何ができるかを考える。
- ④ 沖縄、ラオスに残る不発弾について戦争が残した傷跡の共通点から戦争や争い事をなくすために今自分ができることを考える。

#### この時限のねらい

ラオス・沖縄に戦争が残した傷跡を知ることによって世界平和のために自分たちが今、できることを考える。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇沖縄だけでなく、ラオスでも不発弾があることに驚いていた。戦争の被害はどの国でも変わらないことを実感していた。

◇クラスター爆弾によって苦しめられているラオスの人々、特に自分と変わらない小学生が被害にあっていることに衝撃を受けていた。

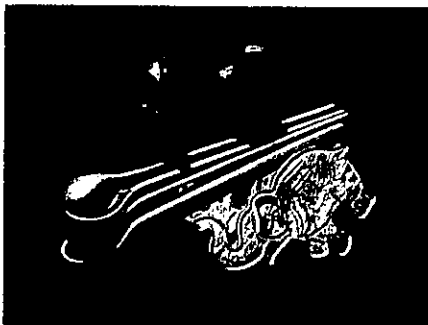
◇今、自分たちができること、ちょっとした争い事をなくすことや言葉遣いを意識する気持ちが芽生えた。

#### 【児童の感想】

◇ラオスの不発弾はとても怖かった。戦争が終わっても戦争の被害にあっているのだから、2度と戦争はしない方がいいと思った。沖縄にもまだ不発弾があるので早くなくしたい。



### 3 使用した教具・写真



不発弾でできた小物



爆発の衝撃を受けた時の表情



爆発の煙